

2026年3月期第2四半期 決算説明会資料



アドバネクス

2025年11月18日

本資料は2025年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

1. 2026年3月期第2四半期 連結業績概要

2. 2026年3月期 連結業績予想

2-1. 業績予想の背景

3. 中期経営計画

3-1. 進捗状況

3-2. 注力市場

3-3. 構造改革

4. トピックス、まとめ

1. 2026年3月期第2四半期連結業績概要

(単位：百万円)

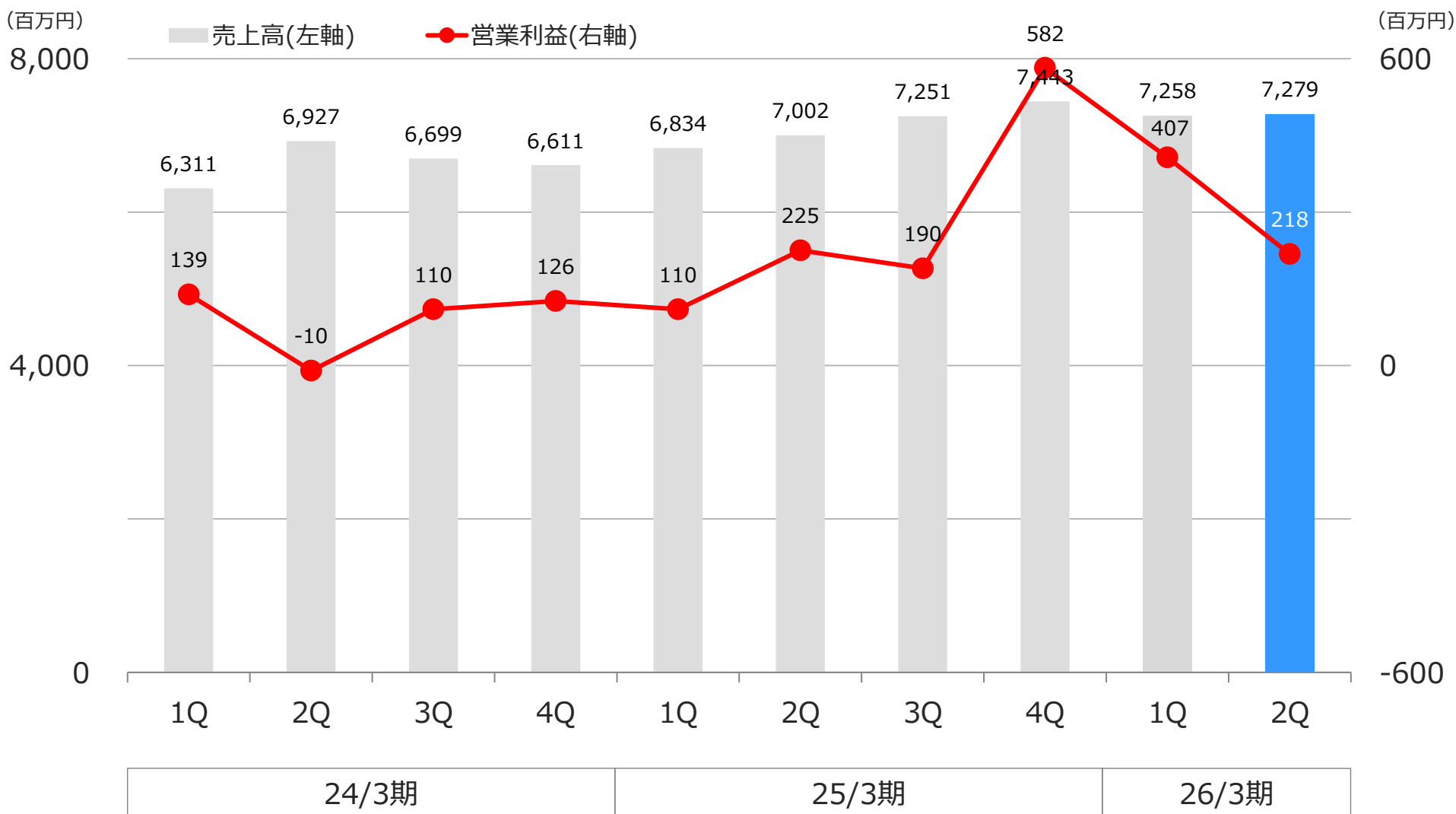
	2025/3期 2Q累計	2026/3期 2Q累計	前期比増減額	前期比増減率
売上高	13,837	14,537	+700	+5.1%
営業利益	336	626	+290	+86.4%
営業利益率	2.4%	4.3%	-	-
経常利益	△816	565	+1,382	-
親会社株主に帰属する 中間期純利益	△924	386	+1,310	-

- 米国関税の影響により航空機向けは苦戦したが、欧米を中心に医療向けが引き続き好調を維持したことから売上高及び営業利益は前年同期比増加
- 保有資産・負債の評価替えによる為替差損が前中間期は△1,055百万円だったが、今中間期は+48百万円と為替差益に転じた
- 結果、経常利益及び純利益も黒字を確保
- マレリ株式会社との訴訟の和解に伴う追加の特別損失として100百万円を計上

25年3月2Q期レート： 1 US\$ = 152.3円

26年3月2Q期レート： 1 US\$ = 146.6円 2025年3月-2025年9月毎月月末TTMレートの平均

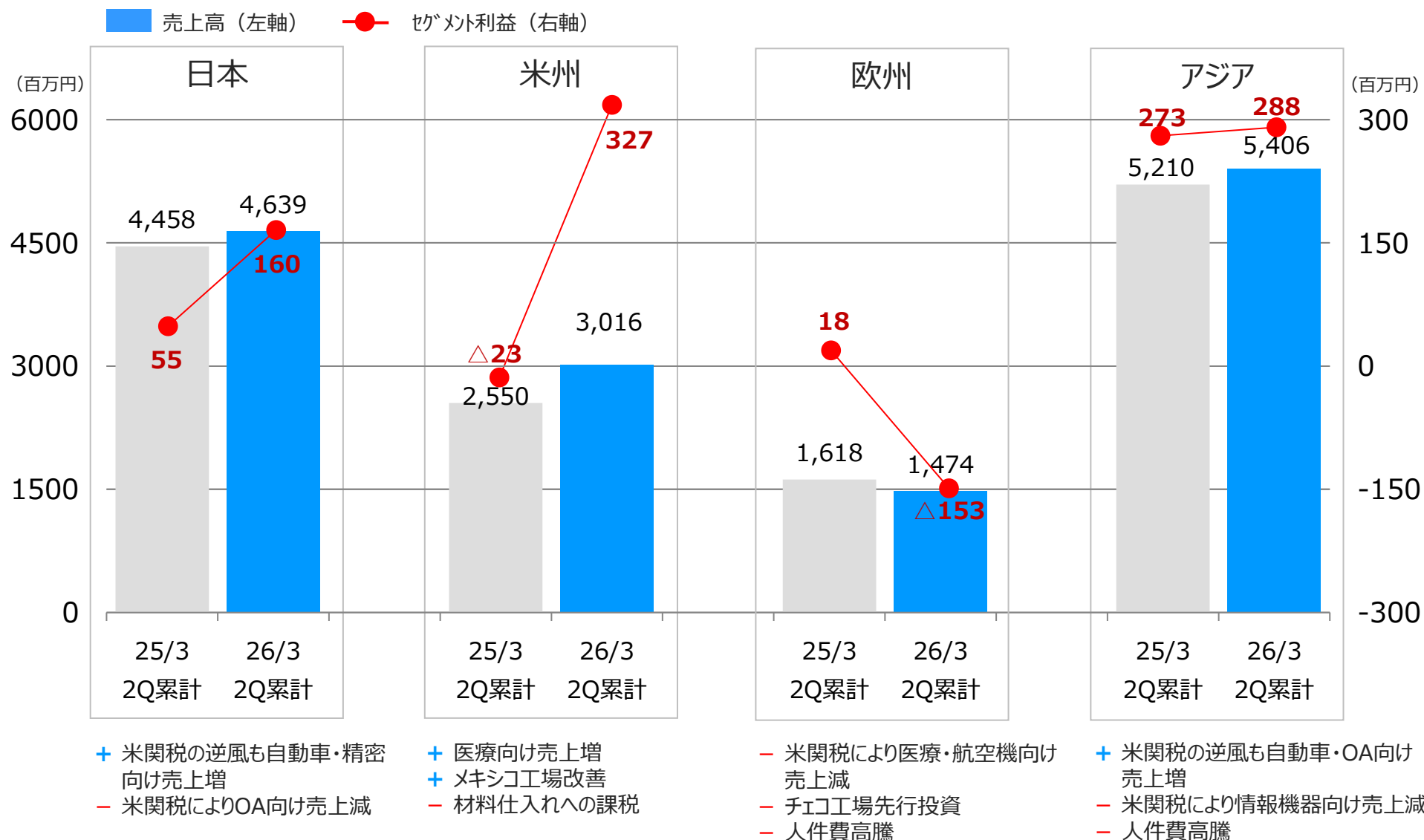
1. 連結売上高・営業利益推移



25年3月2Q期レート： 1 US\$ = 152.3円

26年3月2Q期レート： 1 US\$ = 146.6円 2025年3月-2025年9月毎月月末TTMレートの平均

1. 所在地別売上高・セグメント利益



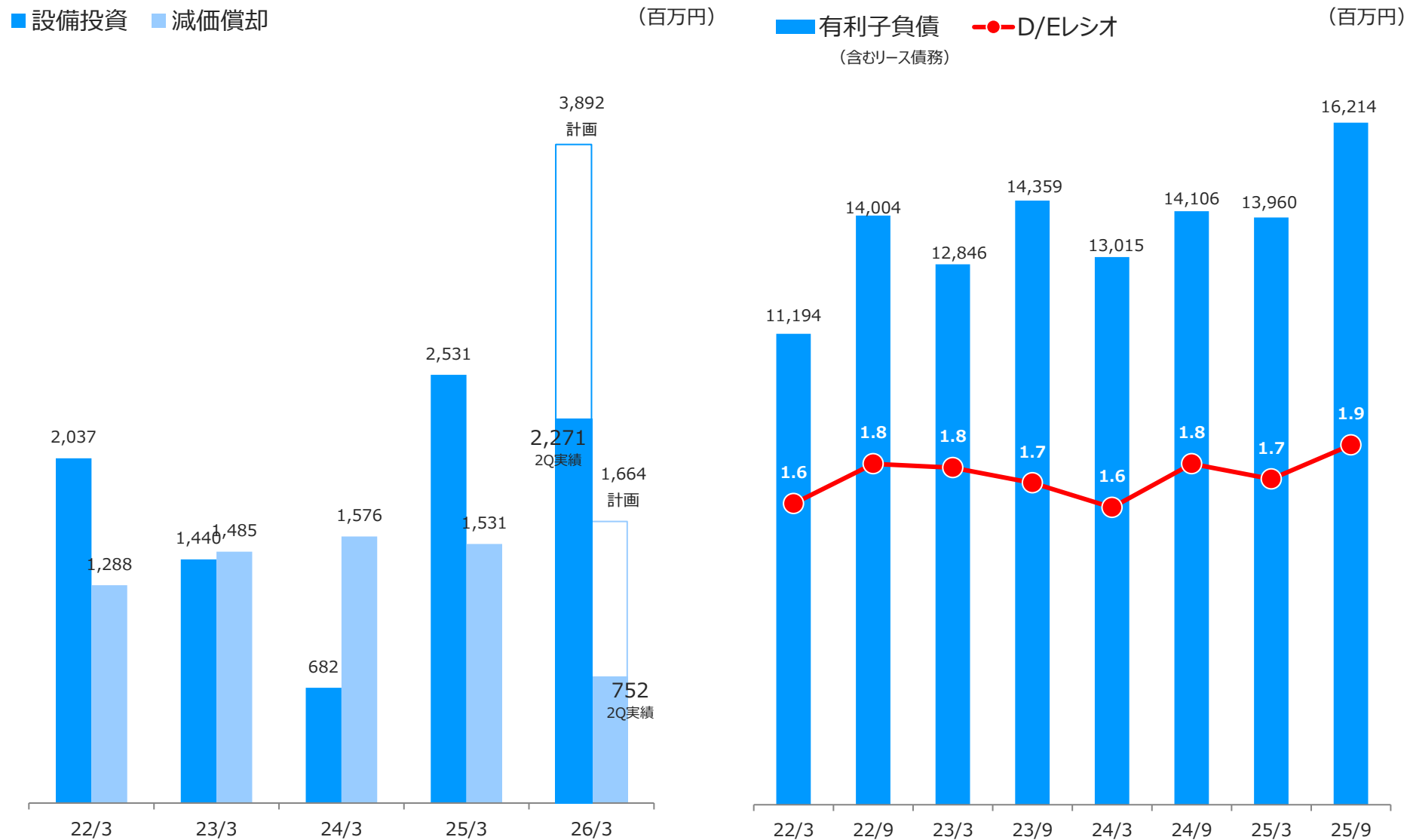
25年3月2Q期レート： 1 US\$ = 152.3円

26年3月2Q期レート： 1 US\$ = 146.6円 2025年3月-2025年9月毎月月末TTMレートの平均

1. 連結市場別売上高

(市場別)	25/3期2Q累計 (4-9月)	構成比	26/3期2Q累計 (4-9月)	構成比	増減額	増減率 (百万円)
自動車(輸送機器)	7,204	52.1%	7,198	49.5%	△6	△0.1%
医療機器	2,533	18.3%	2,955	20.3%	422	16.7%
OA機器	1,402	10.1%	1,400	9.6%	△2	△0.1%
航空機器	704	5.1%	697	4.8%	△7	△1.0%
精密機器	450	3.3%	535	3.7%	85	18.9%
インフラ・住設	342	2.5%	408	2.8%	66	19.3%
AV・家電	265	1.9%	316	2.2%	51	19.2%
情報通信機器	219	1.6%	188	1.3%	△31	△14.2%
その他	718	5.2%	840	5.8%	122	17.0%
合計	13,837	100.0%	14,537	100.0%	700	5.1%
(規格品)						
コイルスレッド	747	5.4%	821	5.6%	74	9.9%

1. 設備投資・減価償却・有利子負債



1. 2026年3月期第2四半期 連結業績概要

2. 2026年3月期 連結業績予想

2-1. 業績予想の背景

3. 中期経営計画

3-1. 進捗状況

3-2. 注力市場

3-3. 構造改革

4. トピックス、まとめ

2. 2026年3月期通期業績予想

8月8日公表の予想から変更なし

(百万円)

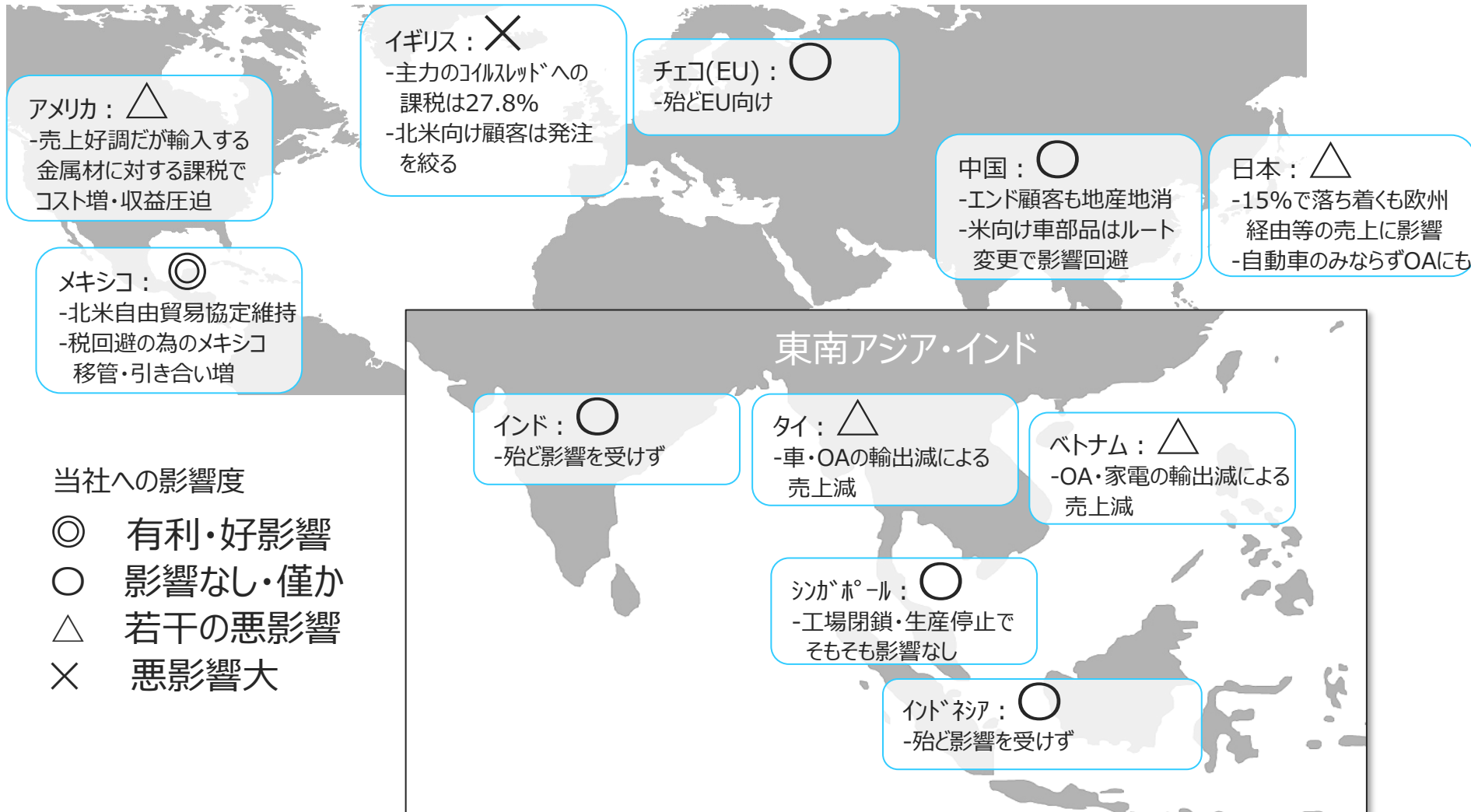
	2025年3月期	2026年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	28,532	29,000	+468	+1.6%
営業利益	1,109	1,000	△109	△9.9%
営業利益率	3.9%	3.4%	-	-
経常利益	170	700	+530	+310.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△628	300	+928	-

(円)

一株あたり 配当	20	20	±0	-
-------------	----	----	----	---

2-1. 業績予想の背景：米国関税の影響アップデート

イギリスの北米向けコイルスレッドへの影響が甚大。また、自動車のみならずOAや材料仕入れへの影響も



期初に想定しきれなかった米国関税の影響

- イギリス工場から北米向けコイルスレッド輸出に対する関税は10%ではなく鉄鋼関連の税率が適用
- アメリカ工場に輸入する原材料に課税
- 日本・ASEANでは自動車・OA・家電の輸出減



ペソ高・ドル安によるメキシコ工場の売上減

- 製造固定費は変わらないが売価は目減り
(工場運営はペソ建て、販売はドル建て)
- 1USD = 期初20.8MXN → 直近18.5MXN

シンガポール工場売却遅延による 固定費負担継続

- 売却完了まで工場家賃の負担残る

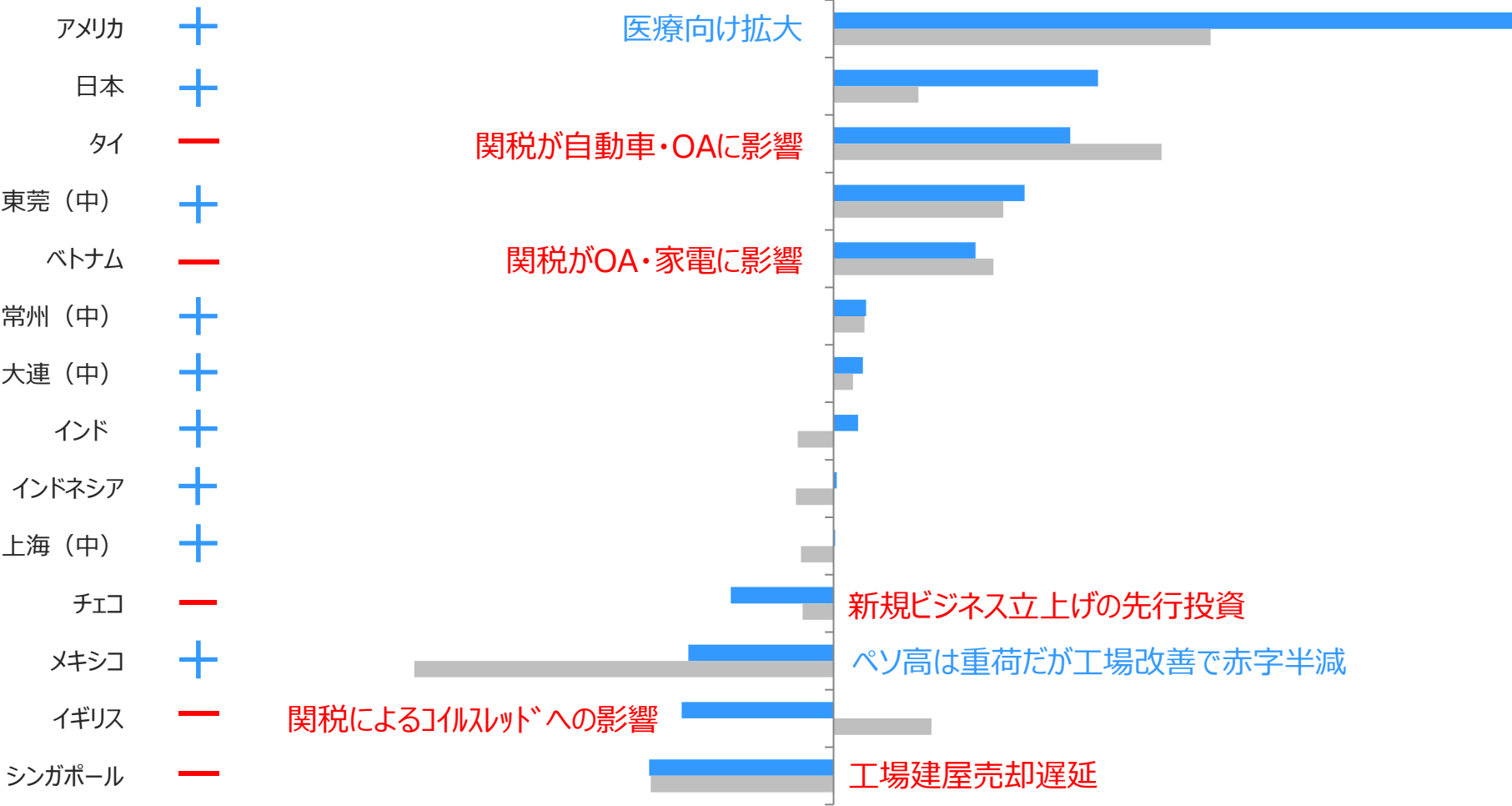


2-1. 業績予想の背景：各社別営業利益

 26/3期上期
 25/3期上期

前年同期比

— 営業利益比較 +



1. 2026年3月期第2四半期 連結業績概要

2. 2026年3月期 連結業績予想

2-1. 業績予想の背景

3. 中期経営計画

3-1. 進捗状況

3-2. 注力市場

3-3. 構造改革

4. トピックス、まとめ

21/4期-24/3期
Phase1

24/4期-27/3期
中期経営計画 Phase2

27/4期-
Phase3

本格的に飛躍

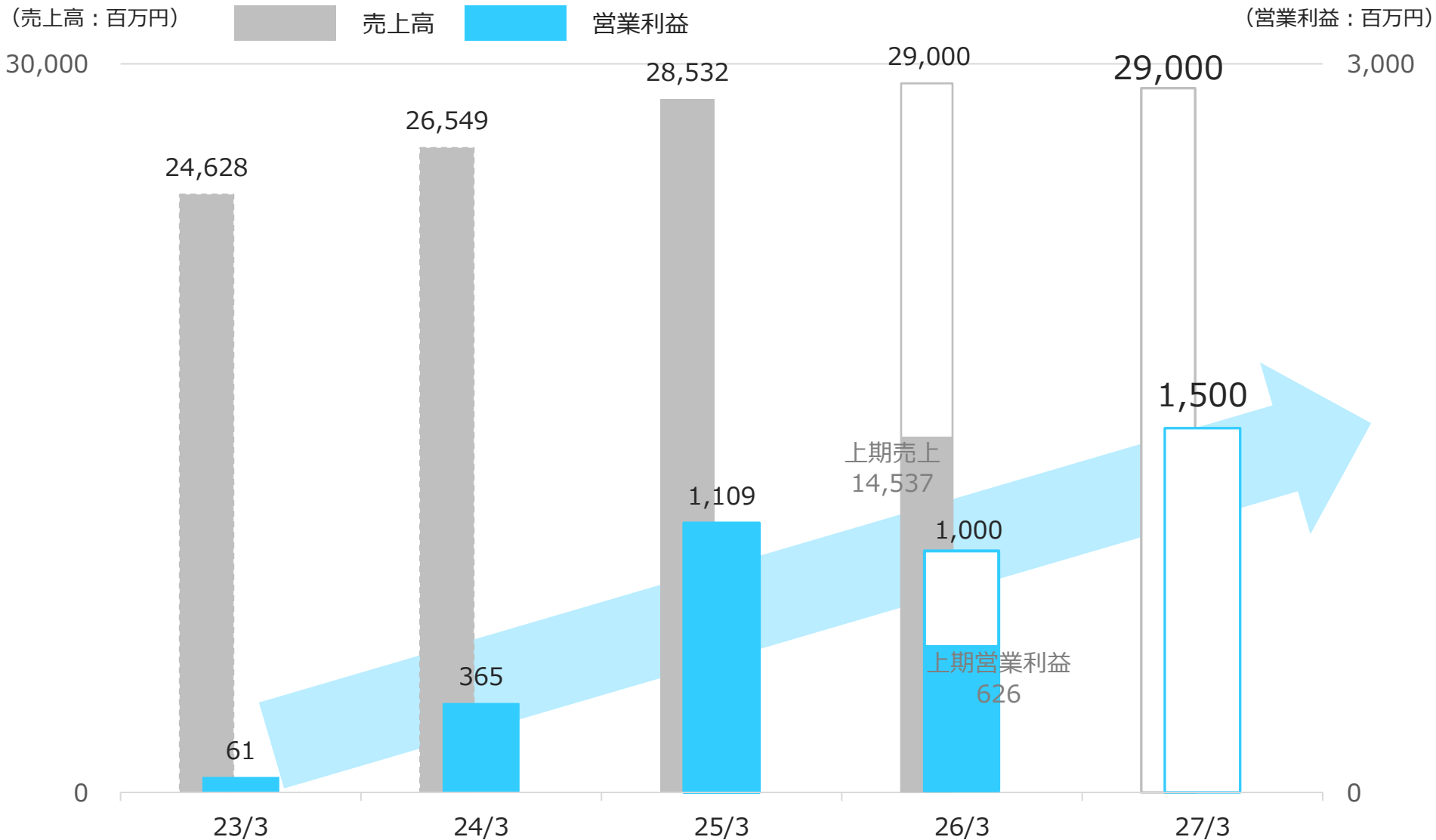
飛躍に向けて手を打つ

- グローバル連携・団結の強化
- 注力市場への経営資源投下
- 構造改革の実行

2027/3期

売上高	29,000
医療売上	6,000
コイルスレッド売上	3,000
営業利益	1,500
有利子負債	9,000以下
自己資本比率	30%以上
ROE	7.0%以上
配当（1株あたり）	50円

3-1. 進捗状況



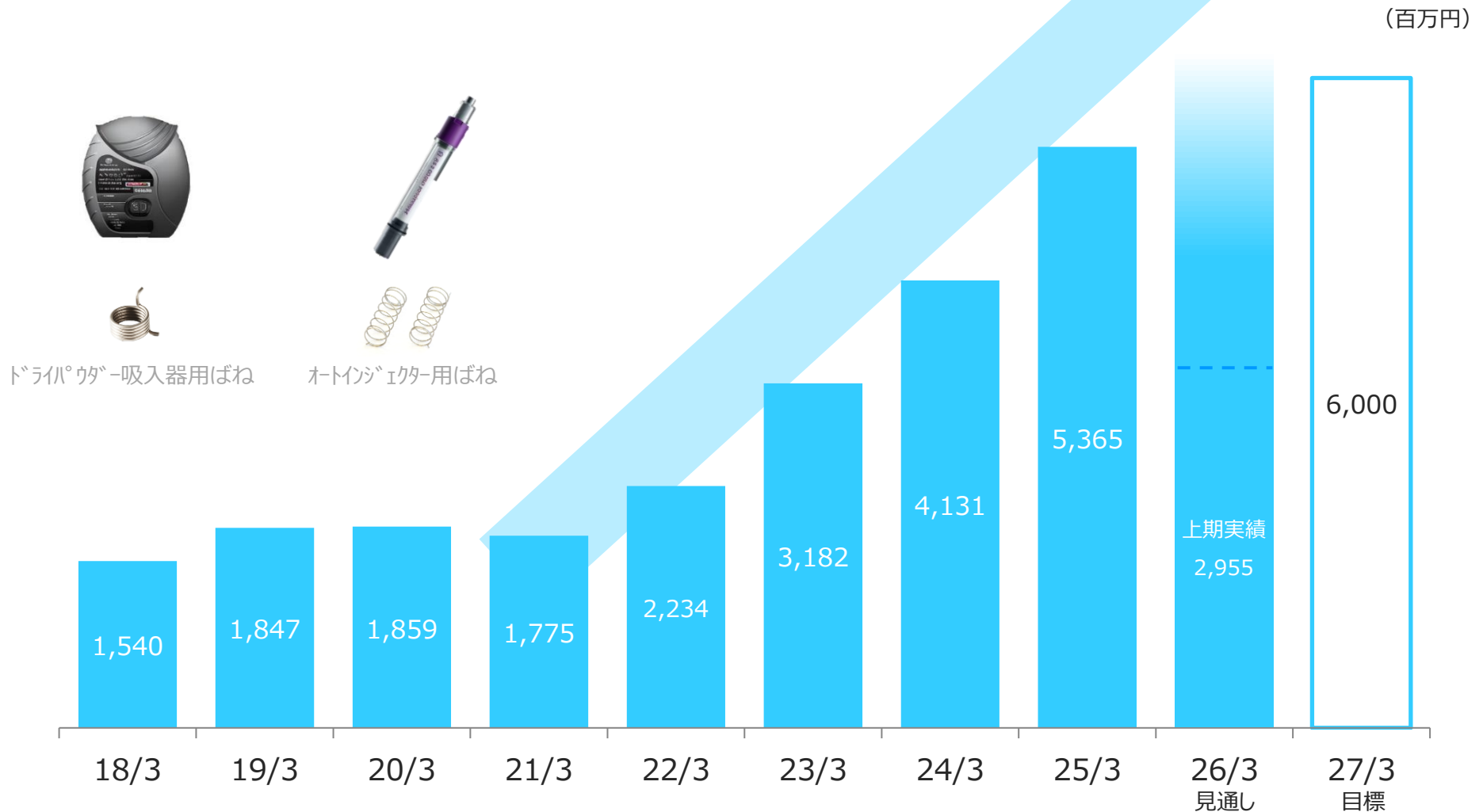
3-1. 進捗状況：重点テーマ進捗評価

医療は1年前倒し。シンガポール・メシコは来期ブレイクインを目指す。コイルスレッドは黄色信号

中期経営計画 重点テーマ	27/3期 目標	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 上期実績	進捗 評価	コメント (億円)
医療拡大	売上 60	41	53	29.6	◎	アメリカのオートインジェクションは好調維持。イギリスとチェコで新機種スタート
コイルスレッド拡大	売上 30	19	19	8.2	△	下期に航空機市場回復の見通しはあるが、30億円のハードルは高い
シンガポール子会社 ブレイクイン	営利 ±0	△3.2	△2.5	△1.1	○	売却先と交渉中。 今期中の売却を目指す
メシコ子会社 ブレイクイン	営利 ±0	△6.3	△4.3	△0.9	○	改善活動進む。 27/3期開始の新規受注 増えるもペソ高は不安

3-2. 医療市場：売上目標

売上60億円の目標を1年前倒し、今期達成する勢い



1モデルの受注・立上げ以降も、段階的に増加。
“エスカレーター”のように自動的*に積み上がるビジネスモデル



1. 生産立上げ

- 試作品、見積もり提出
- 監査合格
- 受注獲得、生産開始

2. 数量拡大

- （単純に）需要増
- 認証国の増加
- 他の疾病への用途拡大（例：糖尿病→肥満症etc.）

3. 海外工場での並行生産（複数拠点生産の開始）

- 顧客からの複数国拠点での生産要求（例：英国→米国、チェコ）

4. 新薬向けへの流用・転用

- 既存顧客が開発した新薬向けに流用
（皮下注射、吸入器などの基本的なメカニズムは同じ）

5. 他製薬メーカー向けの受注

- 医療向け実績があり、オファーを受けやすい
- ノウハウ、実績、設備、医療認証により有利

* 展示会への出展や顧客開発上流へのアプローチなど戦略的な営業活動により受注しているが、結果的には上述のプロセスで積み上がっている

使い捨て医薬品デバイス市場と新製品ラインアップの拡大でばね開発需要も増加



* ばねとデバイスのイメージは実物ではなく類似品のもの（顧客情報保護のため）

3-2. 医療市場：グローバル並行生産

イギリス・アメリカを中心にチェコ・中国東莞でも量産準備が進む、インドにもオファーあり。
メガファーマの要求にワンストップ対応できる精密ばねメーカーは少ない

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
 イギリス工場								
 アメリカ工場	生産中	準備中	準備中	準備中	生産中		準備中	
 チェコ工場	準備中		準備中	準備中	生産中	準備中		
 東莞工場						準備中		準備中
 インド工場					引き合い受領			
 新潟工場								10年以上生産

* ばねとデバイスのイメージは実物ではなく類似品のもの（顧客情報保護のため）

3-2. 医療市場：中国市場の重要性

中華系が欧米系にライセンスを供与するなど中国の存在感が高まる。
製薬中心地は欧州・北米・中国の3極に。それぞれのエリアでの営業活動を強化

欧州・北米系 医薬品会社のメリット

1. 有望な新薬への迅速なアクセス
2. 研究開発コスト削減
3. 代替品確保・特許切れ補填
4. 新興国市場への足掛かり

ライセンス授与

ファイザー
GSK
メルクなど

中華系 医薬品会社のメリット

1. キャッシュ獲得と収益増加
2. ブランド強化、国際認知向上
3. グローバル市場への販売チャネル獲得
4. リスク分散

ライセンス供与

恒瑞医薬
翰森製薬
三生製薬など

中華系製薬メーカーが欧米系製薬メーカーに
新薬ライセンスを供与するケースも増えてきた

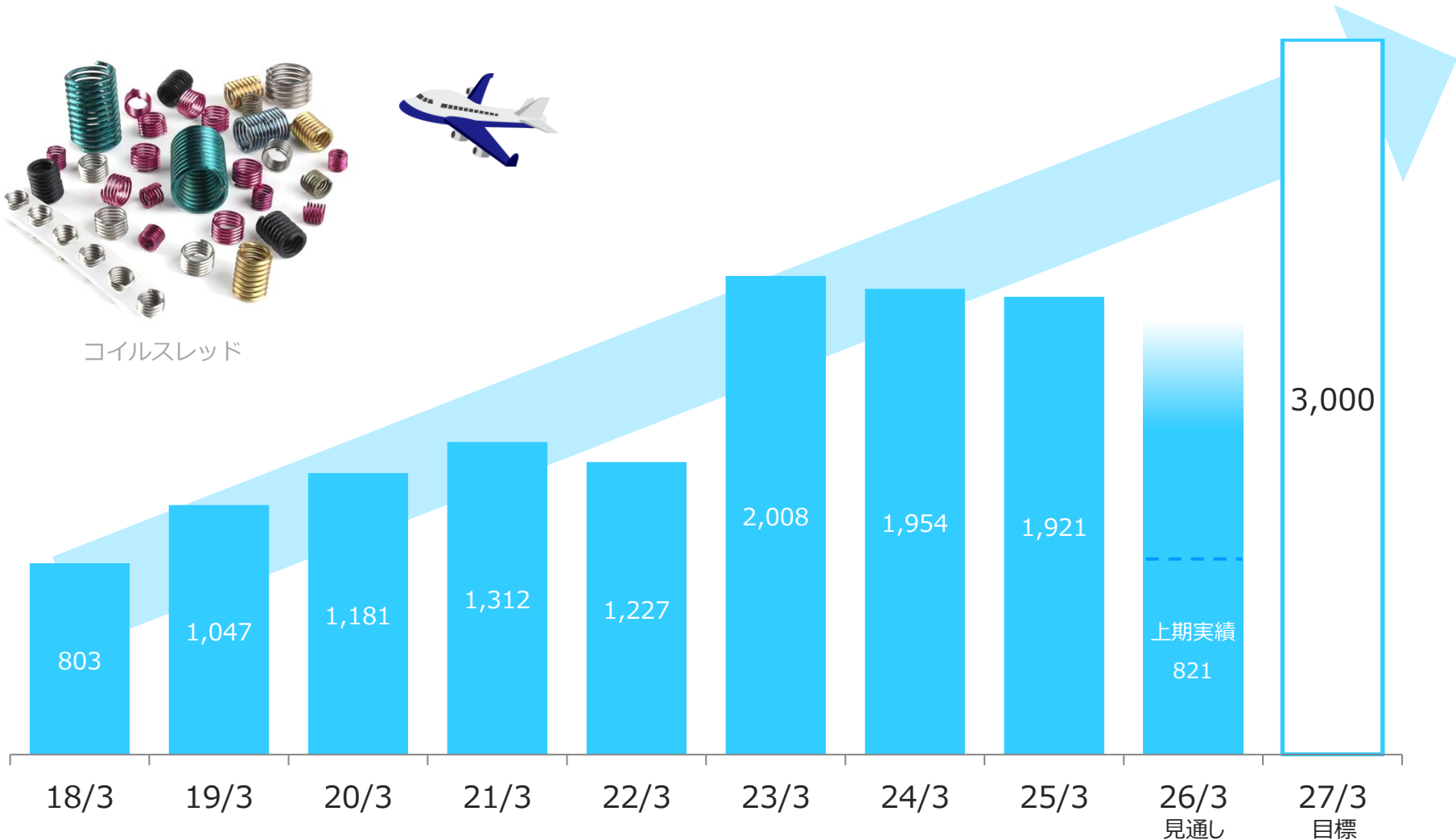
3-2. 航空機市場（コイルスレッド）：売上目標

売上30億円の目標は難しくなってきたが、“旗”は降ろさない

(百万円)

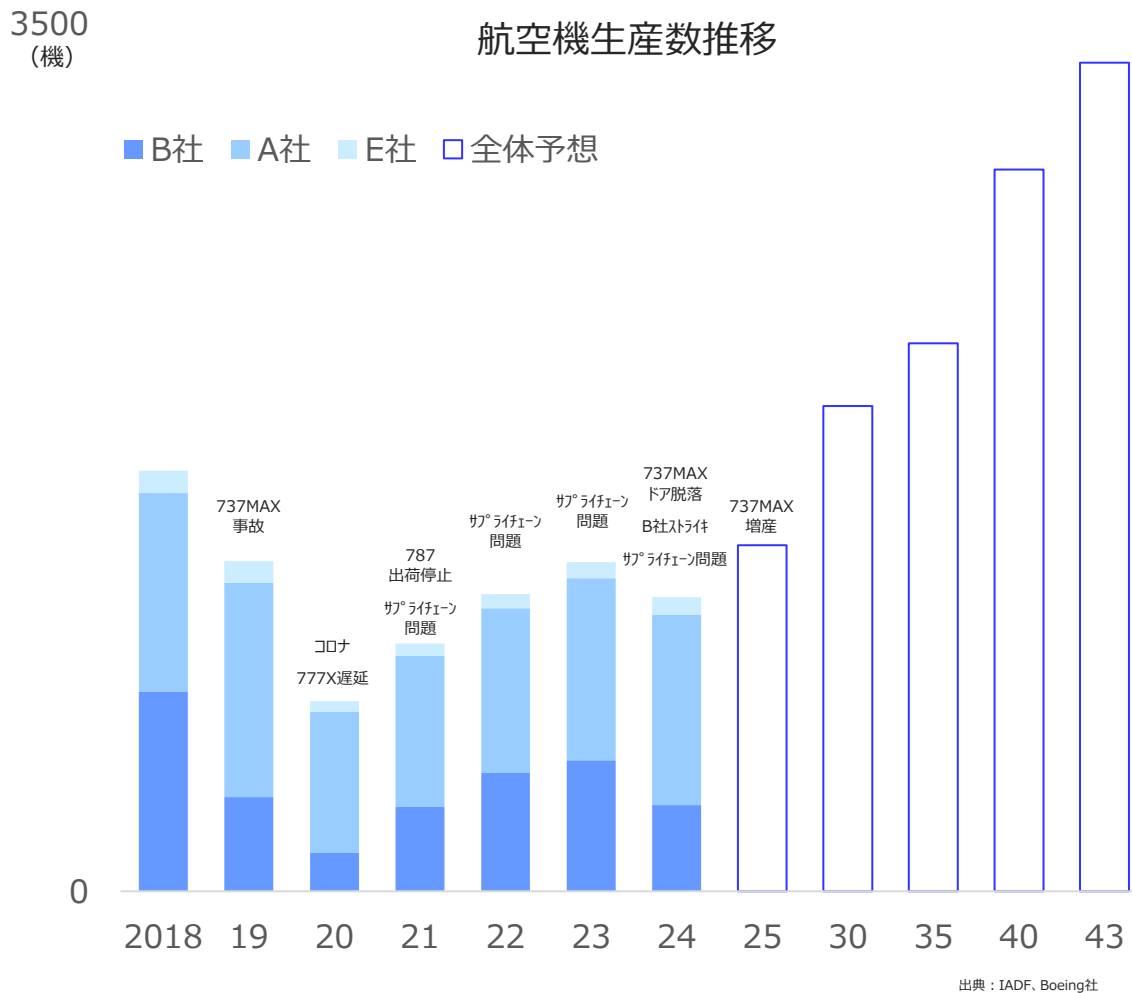


コイルスレッド



3-2. 航空機市場（コイルスレッド）：市場見通し

コイルスレッドはB社苦境・サプライチェーン問題・米関税で苦戦しているが、挽回の兆しも見えてきた。
長期的に成長する見通しは固い



年平均成長率4.7%*1

サプライチェーン問題*2
により供給能力低下、
2025年も影響残る。

B社は事故等で苦境にあるが
737MAXの増産、777X再開
で2026年以降の回復に期待

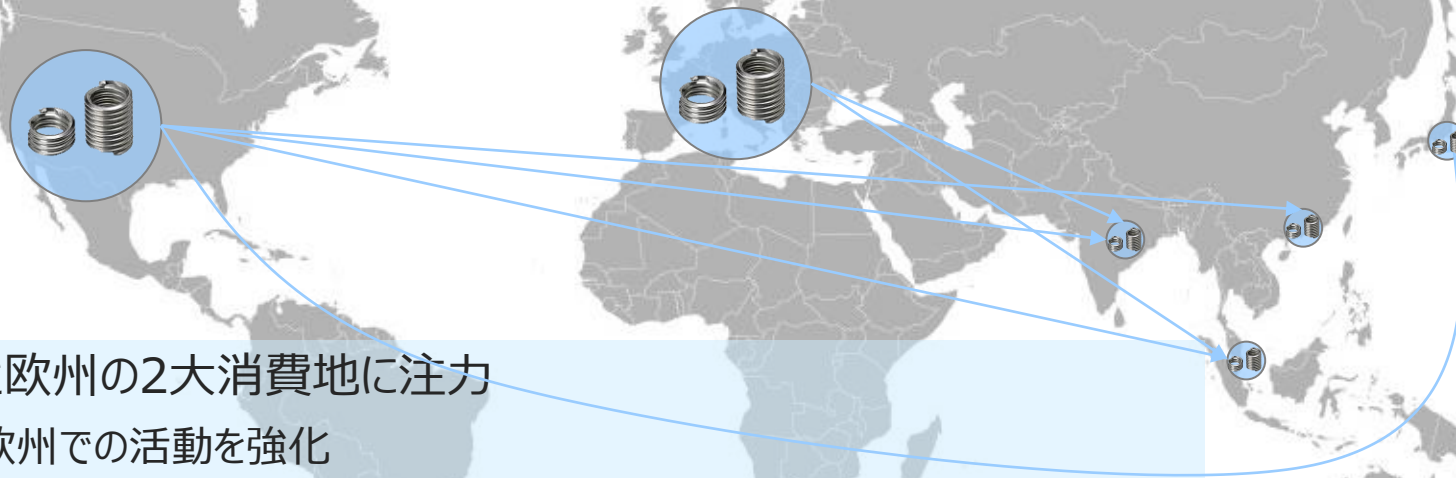
B社系列依存から脱却すべく
A社系列への営業攻勢

*1 2023-2043年の20年間の航空機需要（RPK）の年平均成長率（CAGR）が4.7%。なお、20年間の総生産数予測機数は43,975機

*2 コロナ期に部品サプライヤーはリストラを実施、また熟練工の多くも退職したため需要が戻っても部品供給能力がコロナ前水準に戻らない

3-2. 航空機市場（コイルスレッド）：商流と販売戦略

マーケット上流の欧米から、下流のアジア・日本までのサプライチェーンに食い込む。
航空業界は全世界で統合されたエコシステムを形成（中国は例外）

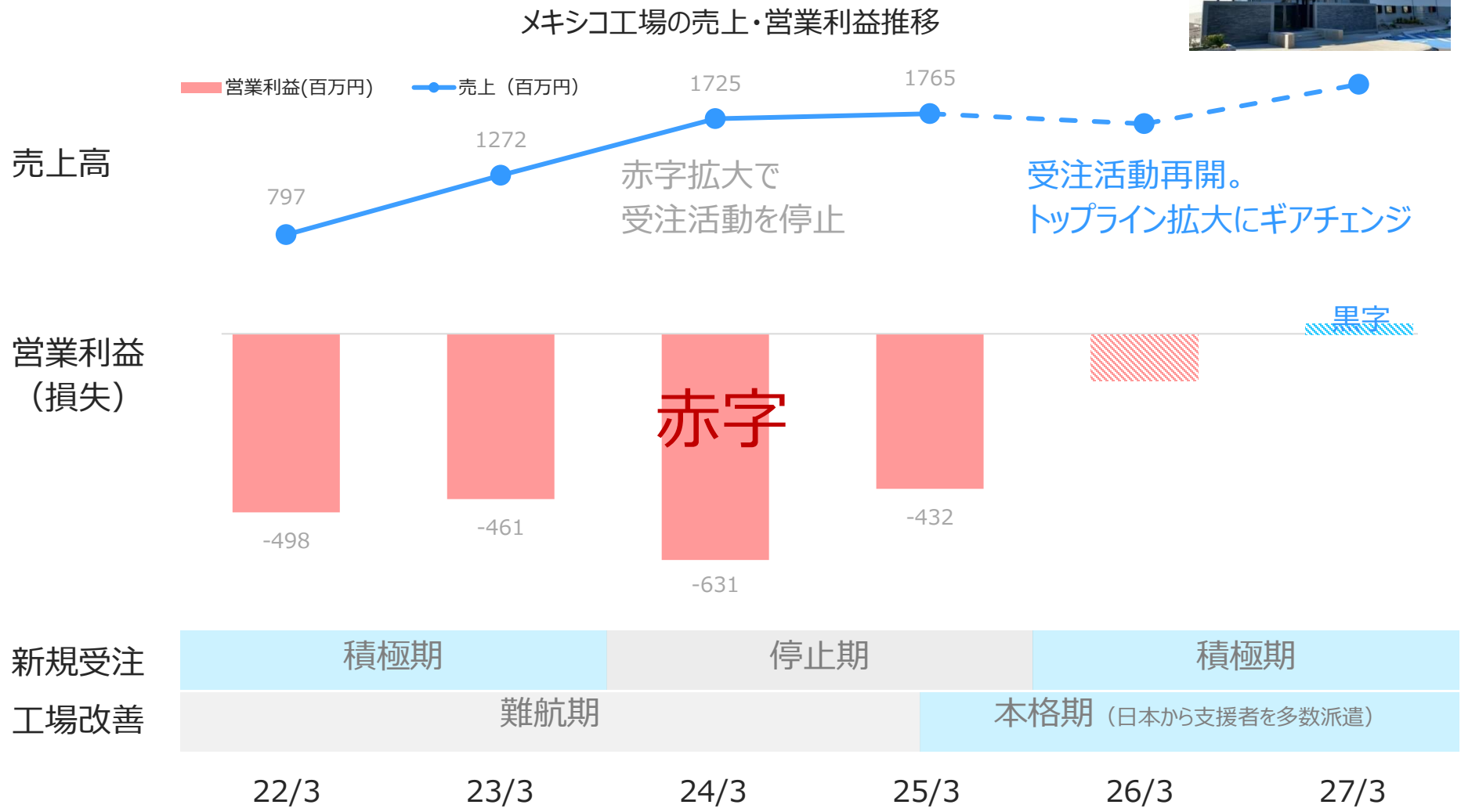


- 北米と欧州の2大消費地に注力
 - 欧州での活動を強化
 - 販社や同業との協業（外部リソースの活用）
- 東南アジア(マレーシア)、インド、香港などのサブ消費地も狙う
- 日本のTier1サプライヤーやMRO(メンテナンス)にアプローチ
 - エンドユーザーからニーズを吸い上げ、製品開発にフィードバック

3-3. 構造改革：メキシコ工場改善



トップライン拡大にギアチェンジ。
損益分岐点が適正水準に下がり新規受注活動を再開、2027年3月期から売上寄与



1. 2026年3月期第2四半期 連結業績概要
2. 2026年3月期 連結業績予想
 - 2-1. 業績予想の背景
3. 中期経営計画
 - 3-1. 進捗状況
 - 3-2. 注力市場
 - 3-3. 構造改革
4. トピックス、まとめ

- 自動車向けは横ばいだが、水面下では多くの新規案件が進む
 - EV向けバスバーの引き合いが日本・中国・東南アジアで急増
 - 同様に「安全」「快適」用のセンサー向けも増加
 - 新規好調から金型製造キャパ拡大のため積極投資中
 - 米国関税回避のためメキシコで引き合いが増加
- アメリカ工場の増築工事は計画どおり進捗、2026年7月稼働予定。フォーキャストも新規引き合いも好調を維持
- チェコ工場は複数の医療向けプロジェクトを準備中。2年後の本格量産開始を想定
- 中国工場（東莞、大連、上海、常州）は想定よりも堅調。一方、構造改革を進める
- シンガポール工場は年度内売却を目指しており、鋭意交渉中

- 業績をけん引するオートインジェクターが注目を集めるが、それ以外の医療プロジェクトも有望。“医療のアドバネクス”を目指す
- 航空機向けは米国関税等により苦戦しているが、エコシステム全体を包括した営業体制を構築し、B社の復調と新たなサプライチェーンの開拓により成長軌道に乗る
- メキシコ工場はペソ高が足を引っ張るが、2027年から計画している量産開始により黒字化も見えてきた
- 今下期（10月-3月）の見通しはやや厳しめに見ているが、引き続き中期経営計画の達成を目指す

ADVANCEX

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
経営企画室

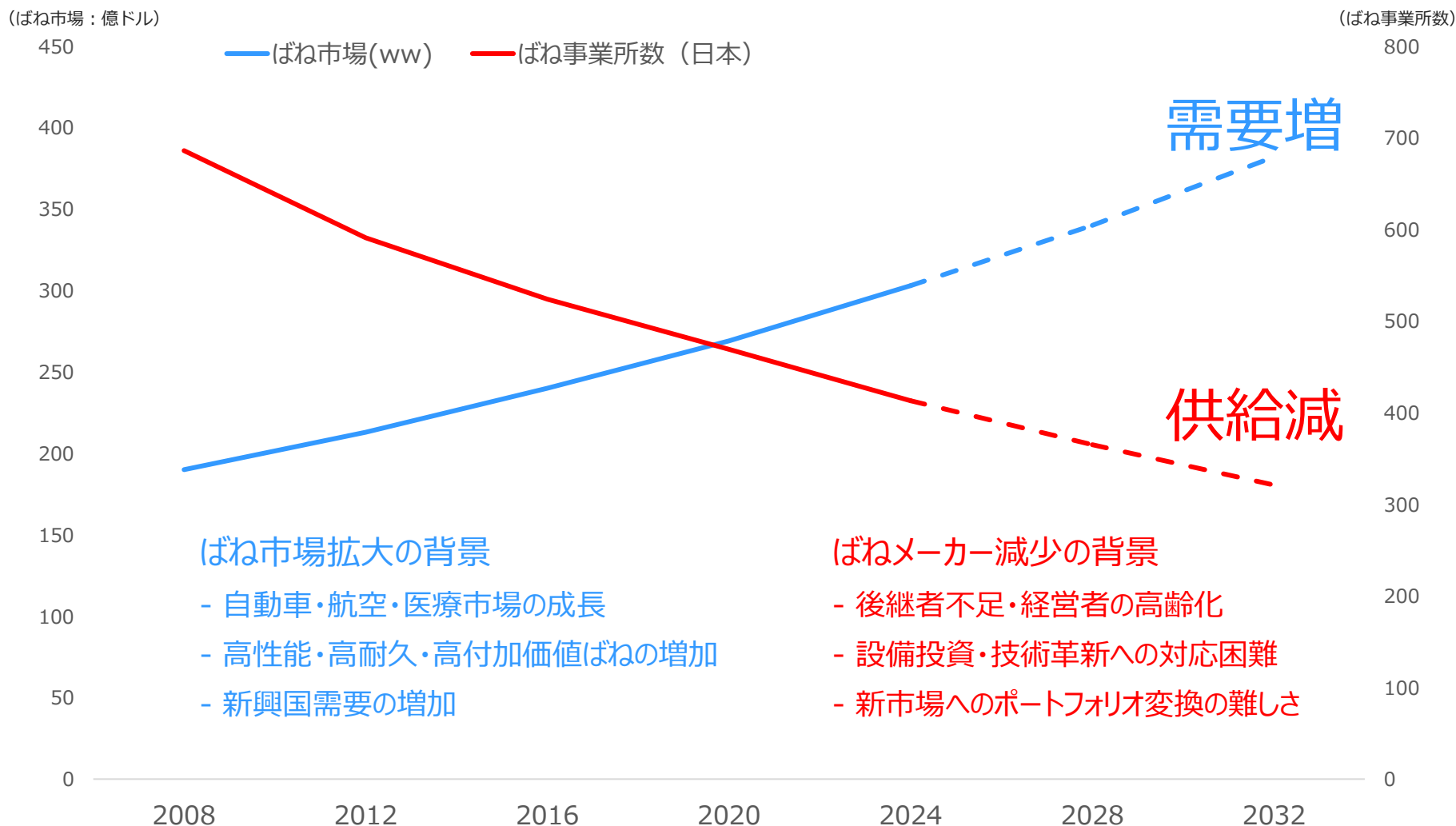
TEL : 03 - 3822 - 5865

Email : tsutomu_kumaki@advanex.co.jp

URL : <https://www.advanex.co.jp>

(参考) ばね業界の需給推移

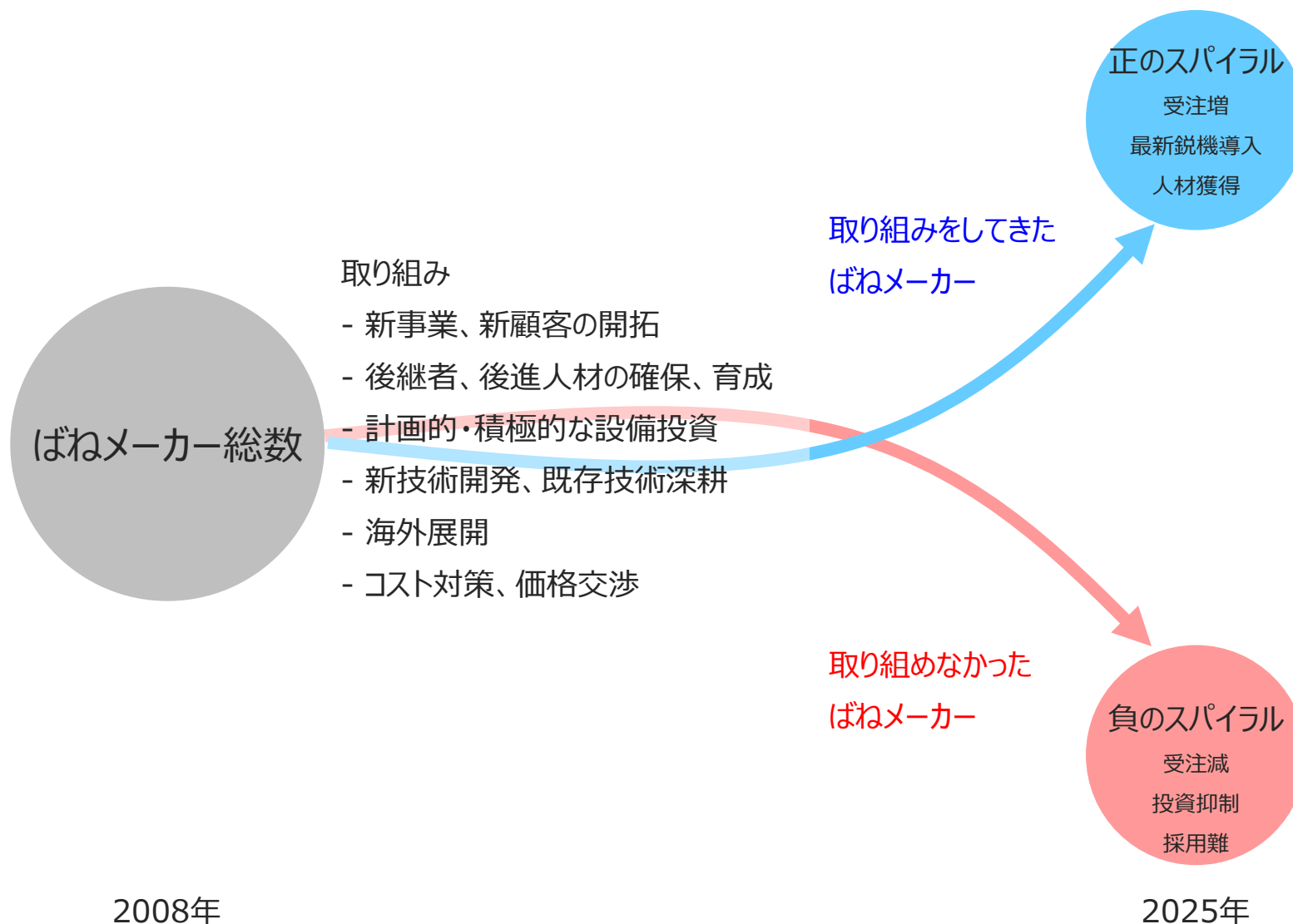
ばね需要拡大の一方、メーカー数（事業所数）は減少傾向*



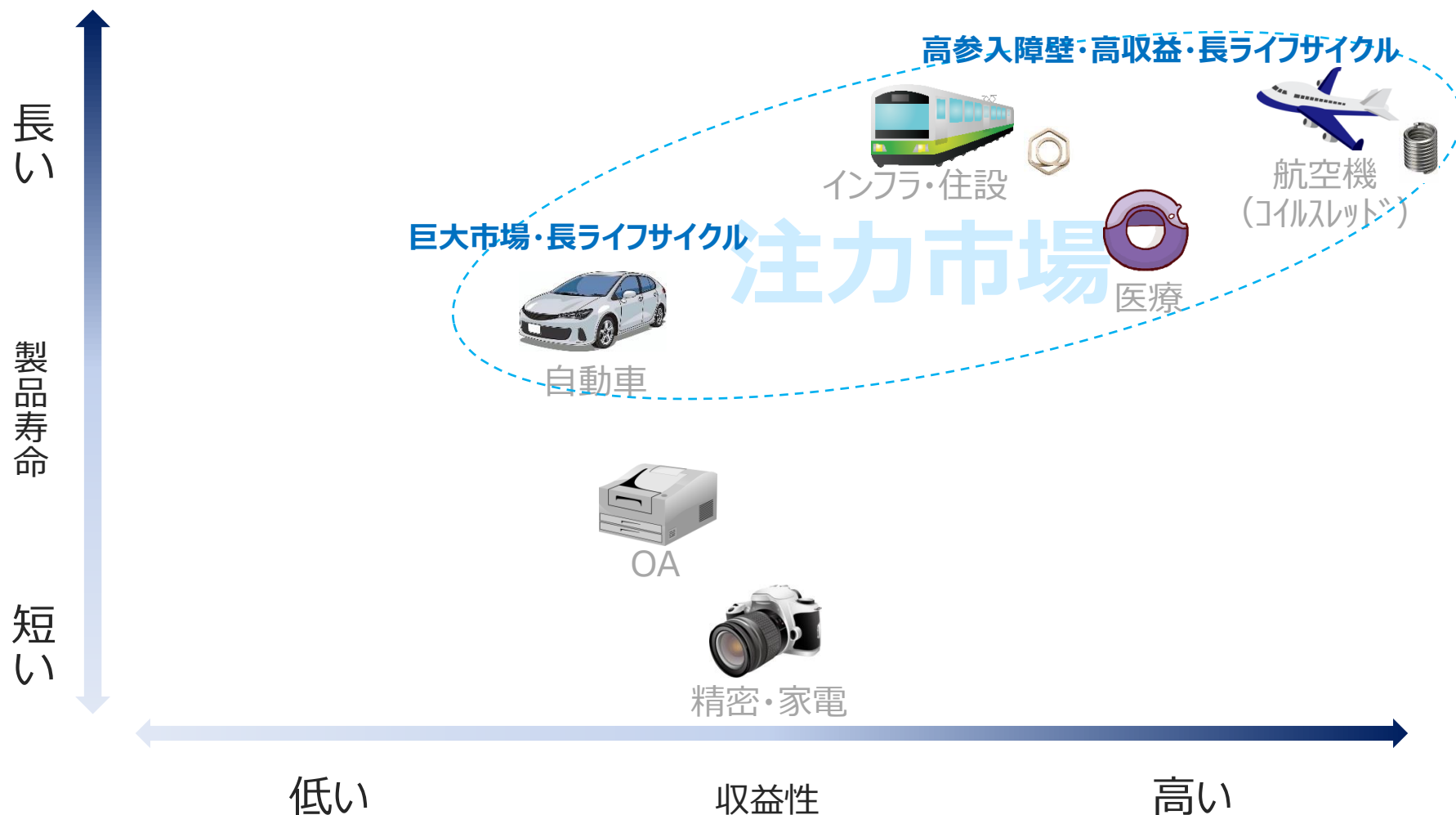
出典：Deallab, 日本ばね工業会、AIによるデータ補完

* ばね事業所数は日本国内のデータだが海外でも廃業するメーカーが増えている

ばね業界でも二極化が進む。変革・革新に取り組んだばねメーカーは残存者利益を享受



注力分野は「医療」「航空機（コイルスレッド）」「自動車」に加え、「インフラ・住設」。
高収益、長ライフサイクルの安定市場に長期戦略をもってグループ連携で取り組む



インジェクターや吸入器など使い捨てデバイスの有効性は明らか（通院や経口薬との比較）

カテゴリー

キーワード

内容

マクロ

- ✓患者・利用者数増
- ✓医療費負担
- ✓使用承認国増

- 地球温暖化による気管支疾病者の増
- 新興国の富裕化による糖尿病患者増
- 中間層拡大による高度医療受診者増
- 医療費増加による国家財政の圧迫、コスト削減ニーズ
- 各国で新薬の認証が進み使用承認国が増加

利便性

- ✓通院不要
- ✓投薬回数少
- ✓プライバシー保護

- 自分で投与可能
 - 通院する必要がない
 - 通院できない地域住民でも治療継続可能
- 週一回の投与など（経口薬より投与回数が少ない）
- 他の来院患者や医療従事者に知られない

効果

- ✓薬効
- ✓低リスク
- ✓治癒率

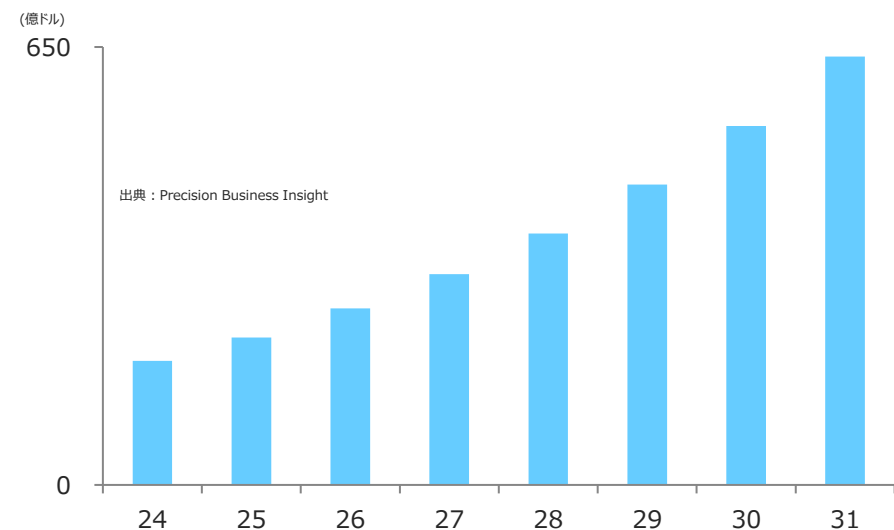
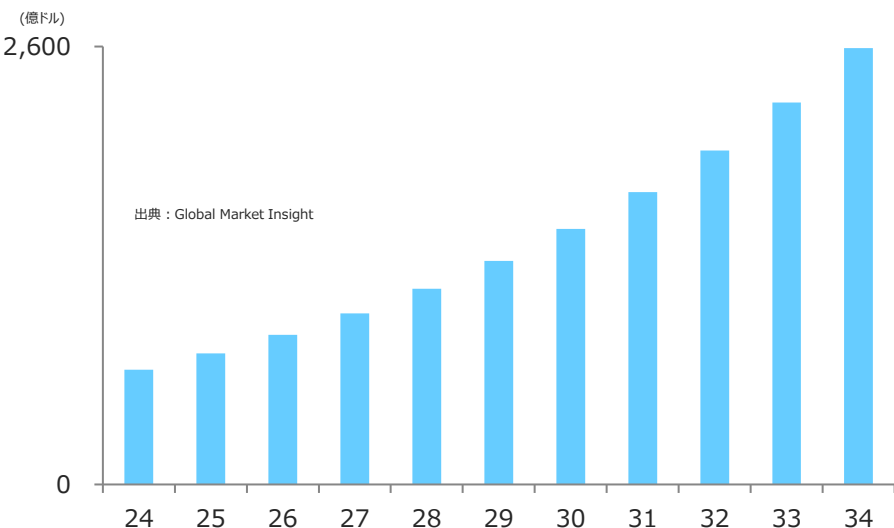
- 肺や血管に直接投与できる
 - 経口薬は消化酵素や胃酸で効果が減免
 - 経口薬は全身に作用し副作用のリスクが高い
- 医師の指示を遵守しやすく(アドヒアランス)治癒率が高い

サプライヤー

- ✓ジェネリック増
- ✓新製品、バリエーション増
- ✓新規参入増

- ジェネリックの参入により低価格化
 - 低所得国への普及、利用者増加
- 新製品、機構設計の開発・登場
- デバイス設計・アッセンブリーメーカーの参入増加
 - 一方、ばねメーカーの増加は限定的

インジェクターと吸入器は、前述の背景により安定的に成長する見通し



インジェクター市場

年平均成長率(CAGR 2024-2034)

14.3%



吸入器(インハイ-)市場

年平均成長率(CAGR 2024-2031)

19.4%



(参考) 構造改革：シンガポール工場閉鎖

生産は終了。工場内の整備も概ね完了。
売却遅れにより維持費用負担残る。年度内には決着させる



旧製造フロア



旧オフィスフロア



シンガポール工場



空港から10分
マーライオンから10分

25/3期売上・営業利益ともに子会社トップ、連結業績をけん引。需要倍増に備えて工場増築を前倒し



アメリカ工場（テネシー州）

建屋面積2.3倍に



概況

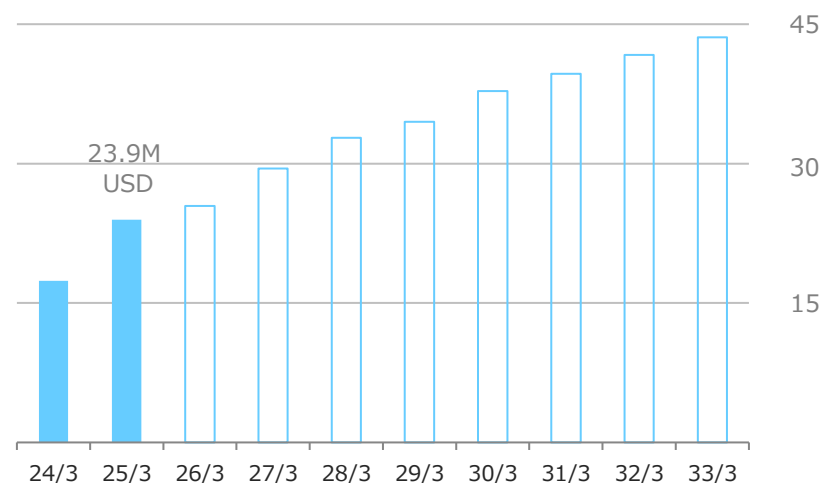
- オートインジェクションが急拡大
- ばねサプライヤーの中でトップ評価、メガファーマのシェア確保
- 確度の高い長期フォーキャストを受領
- 増築部分は2026年7月稼働予定



アメリカ工場主力製品のオートインジェクション用ばね

アメリカ工場売上見通し

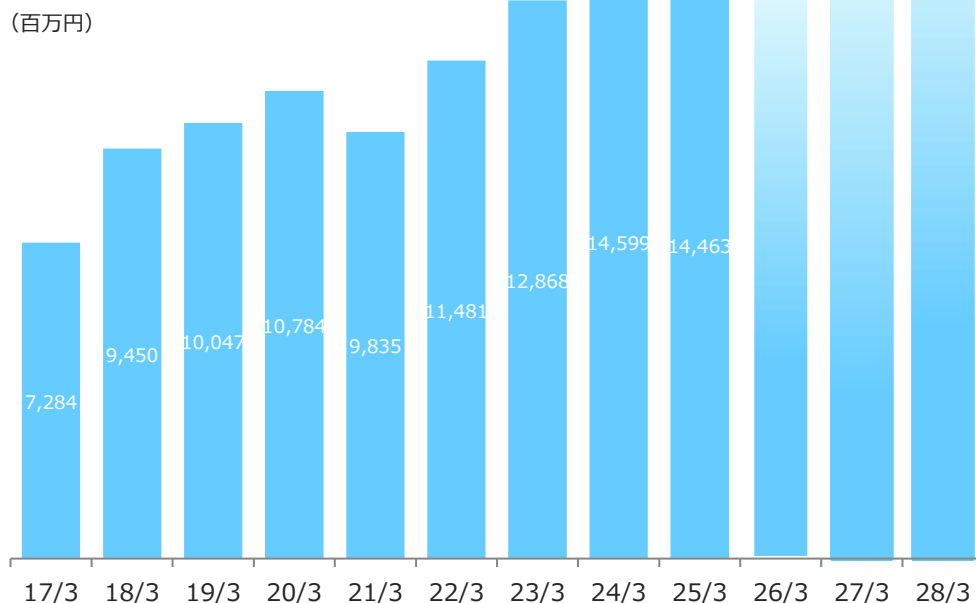
(M USD)



自動車向けは足踏みが続いているが、27/3期頃からグループ各社でEV・HEV・PHEV向け本格化の兆し

自動車向け売上推移

コロナ・回復期 端境期 EV成長期



EV関連部品受注拠点



〔社名〕

株式会社アドバネクス
(スタンダード市場)

〔設立〕

1946年11月



〔事業内容〕 精密ばね製品等の製造・販売

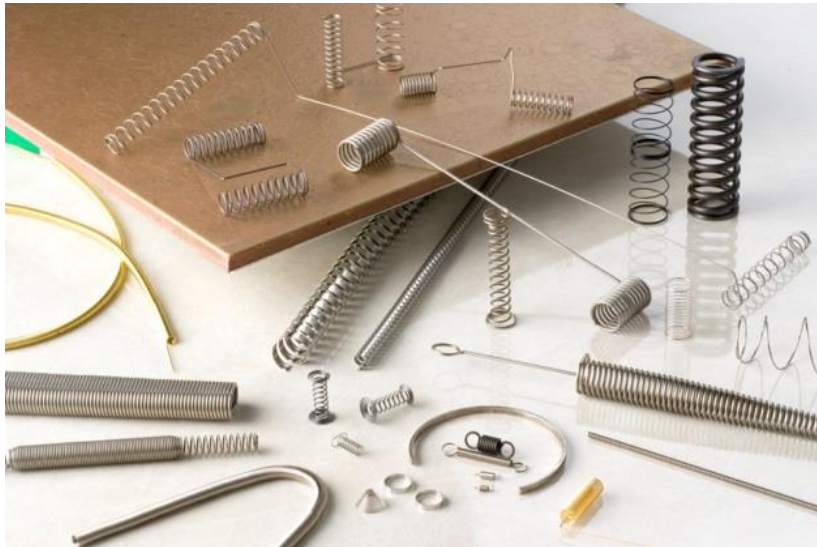
〔従業員数〕 1,870名 (連結)

354名 (単体) * 2025年3月末時点

〔連結対象子会社〕 14社 (海外14社) * 2024年3月末時点

〔売上〕 285億円 * 2025年3月期

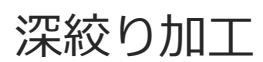
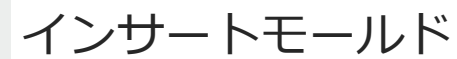
板ばね



線ばね

フォーミング加工





タングレス・インサート

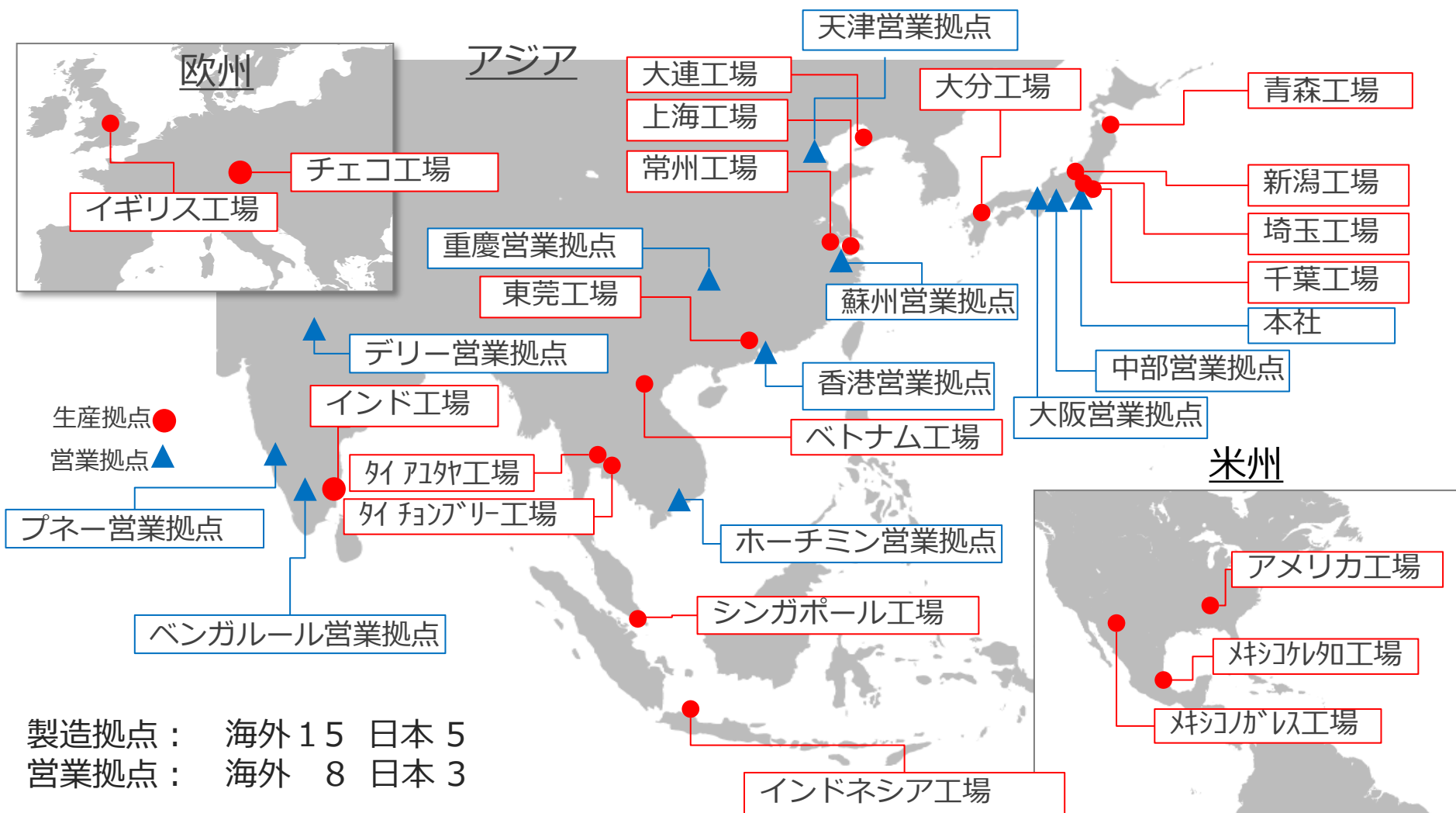


インサートカラー



ロックワシ

精密ばねメーカーでは最多の海外拠点数



製造拠点は営業拠点も兼ねる



新潟工場



埼玉工場



青森工場



大分工場



千葉工場



シンガポール工場



タイアユタヤ工場



タイチョンブリー工場



ベトナム工場



インドネシア工場



インド工場



中国上海工場



中国大連工場



中国常州工場



中国東莞工場



アメリカ工場



メキシコケレタロ工場



メキシコノガレス工場

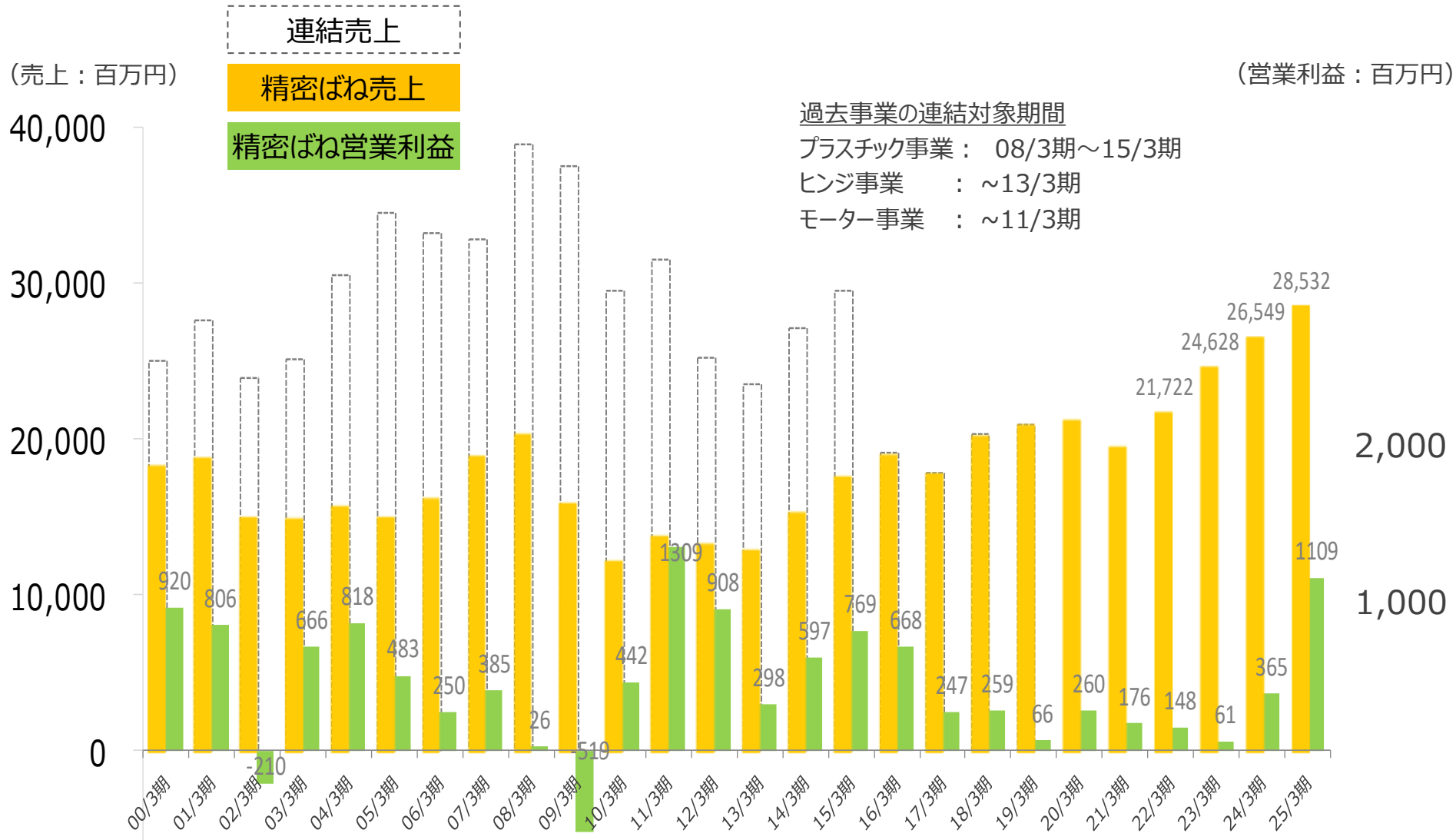


イギリス工場



チェコ工場

(参考資料) 精密ばね事業の業績推移

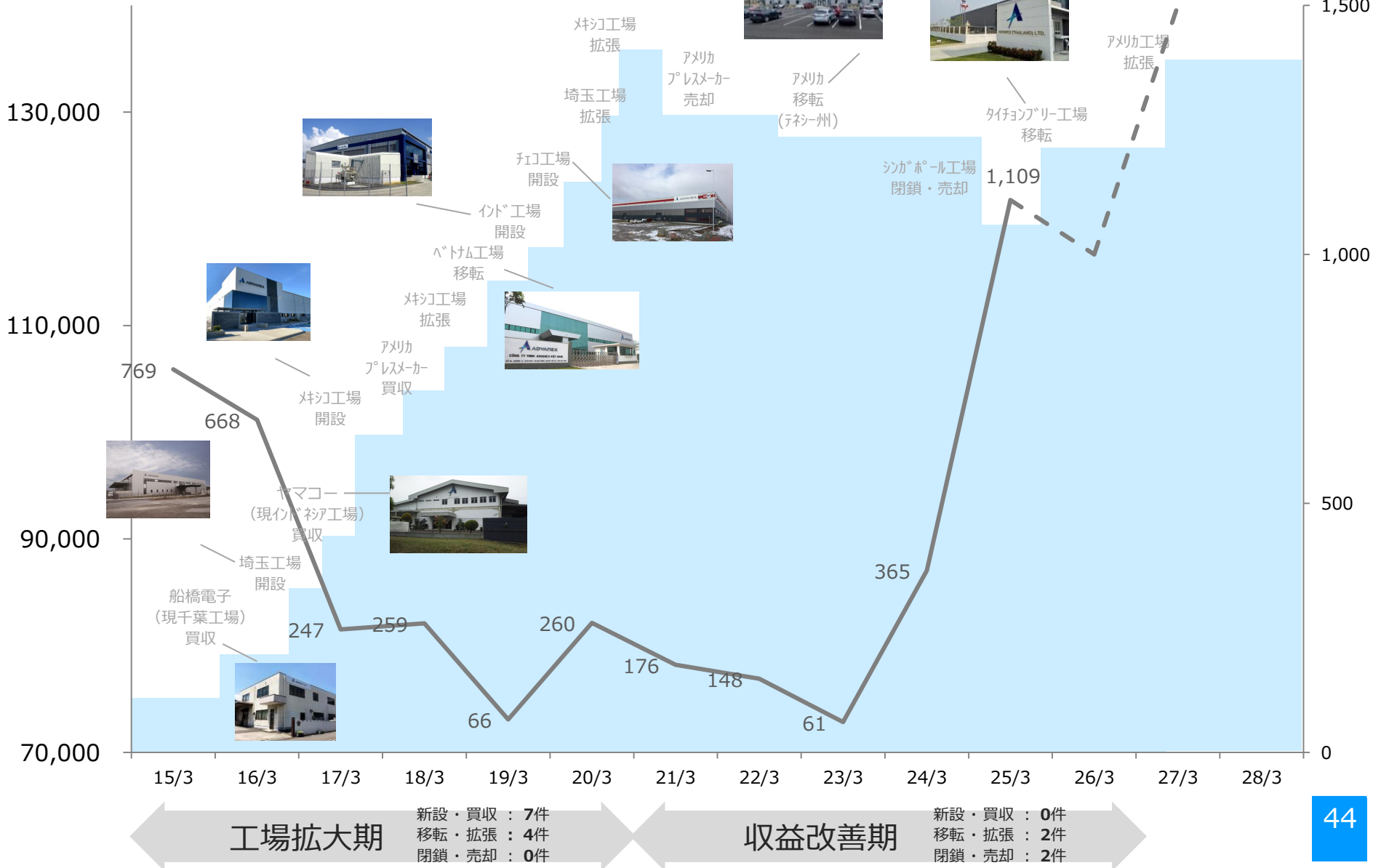


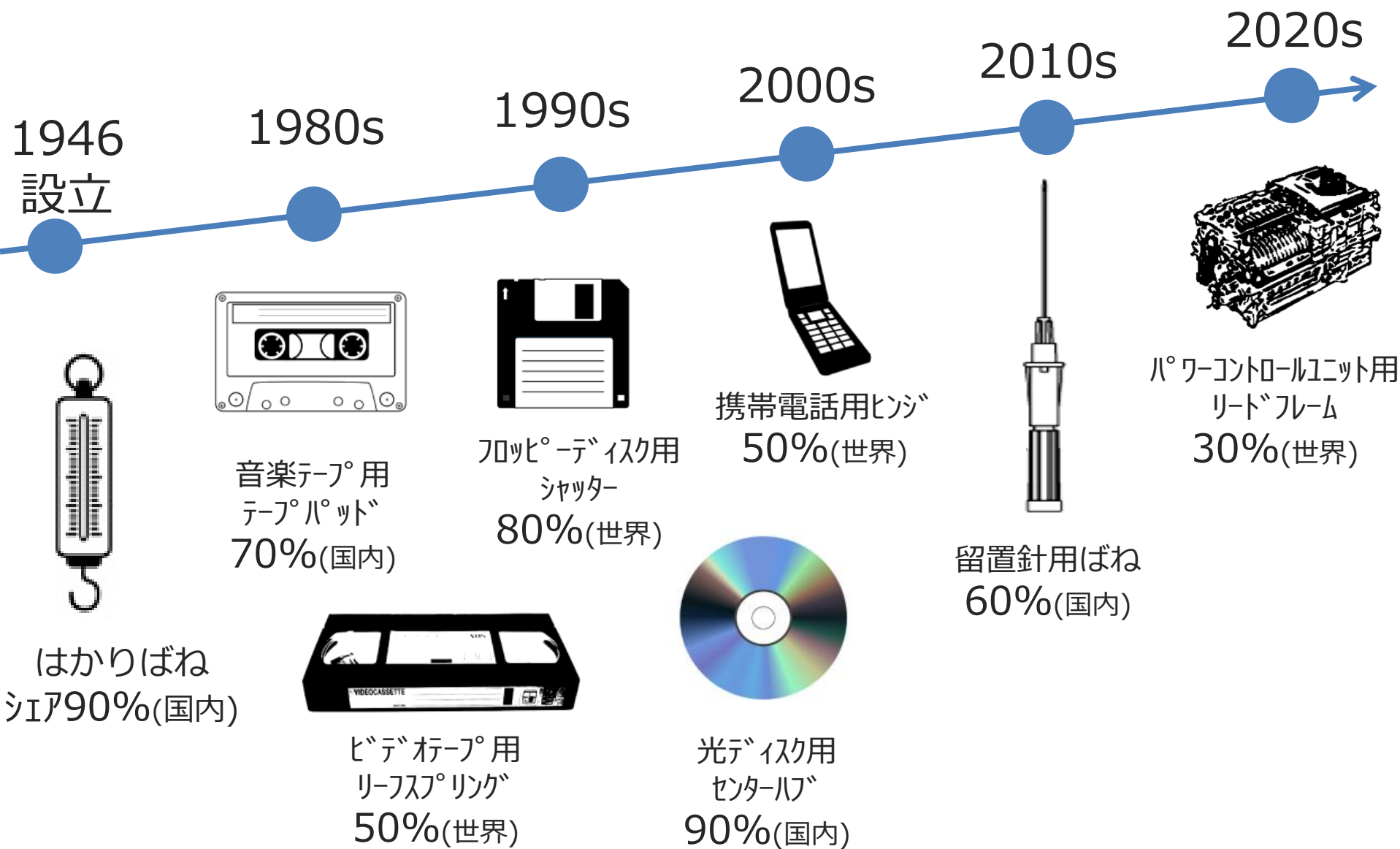
(参考資料) 工場面積推移と営業利益

“筋肉質”に変換し、収益力を強化していく

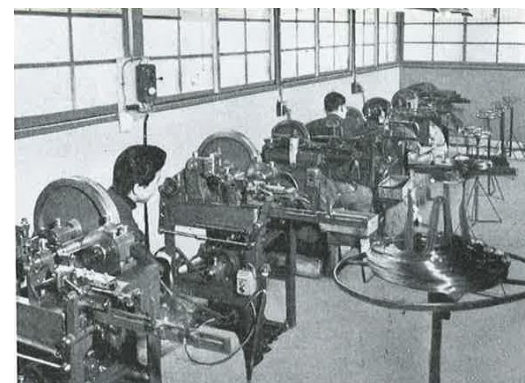
(総面積：㎡)

(営業利益：百万円)





- 1930年 東京都江戸川区にばね専門工場を創業
- 1946年 株式会社に改組、資本金を199千円で
「株式会社加藤スプリング製作所」を設立
- 1964年 東証二部上場
- 1971年 カトウスプリングUSAをロサンゼルスに設立
(初の海外進出)
- 1976年 新潟県柏崎市に新潟工場を建設し操業を開始
- 1978年 カトウスプリング・シンガポールを設立
(初の海外生産拠点)
- 2001年 株式会社アドバネクスに社名を変更
- 2004年 東証一部に昇格
- 2014年 船橋電子株式会社を子会社化
- 2015年 埼玉工場開設
- 2022年 スタンダード市場に移行



1957年頃の作業風景



新潟工場



埼玉工場

コイルスレッドは当社規格品の代表的製品

“ねじ穴の補強”と“ゆるみ止め”の効果で、主に航空機市場にて重宝されている

コイルスレッドと挿入工具



カットサンプル



使用例



ボルト締め

挿入後

挿入前

コイルスレッドをねじ込んだ
ねじ穴にボルトを締める

コイルスレッド主要市場の航空機



航空機1機あたりのコイルスレッド使用数は10万-30万個